

鶴見の本山と瑩山禪師さま

横濱善光寺留学僧育英会常務理事
龍光寺住職 佐藤俊明

一

開創二十五周年、まことにおめでとうござい
ます。

近隣の寺々が四百年、五百年という長い歴史
と伝統にまもられ、すべての面で安定している
その狭間に、新しく寺を開創し、檀家の一軒も
ないとところから出発して、わずか二十五年後の
今日、檀家数三千を超える大きな寺に成長発展
したことはまさに前代未聞のことであります。

これは、方丈様と皆様方が信心を培養し、一
心同体となって精進された成果であり、心から
敬服し、お祝い申し上げる次第であります。本
日の記念式典も、出席者が五百人を超すという
大勢のため、この御本山をお借りしなくてはな
らず、これまた本山六百七十三年の歴史の中
ではじめてのことではないかと思えますし、こ
のご縁はまことに尊く有難いものであります
で、この機会に、本山のこと、開祖瑩山禪師さ
まの事どもを中心にお話し申し上げます。

日本の禪宗には、曹洞宗、臨濟宗、黄檗宗の三つがありまして、私どもの宗派はその中で一番大きい曹洞宗であります。これは「ソートーシュー」と澄んで発音するのが本当で、「ソードーシュー」と濁っているのは間違いです。

曹洞宗には「一仏兩祖」のさだめがあります。「一仏」とはひとりの仏さま、つまり釈迦牟尼仏、お釈迦さまのことです。「兩祖」とは、ふたりのお祖師さま、道元禪師さまと瑩山禪師さまのことです。

お釈迦さまは仏教をはじめられたお方で、そのみ教えを摩訶迦葉尊者がそっくりそのまま受け継がれ、それを阿難尊者が受け継ぐという風に、お師匠様から弟子へ、そしてまた弟子へと、正しく伝わり伝わって第二十八代目の達摩大師に至りました。達摩大師は、お釈迦さまか

ら正しく純粹に伝えられた仏法を弘めるため、晩年になってから三年の歳月を費して中国にやって参りました。そして中国禪宗の初祖になり、そのみ教えはインドにおけると同様正しく伝わり伝わって第十五代目に天童如浄禪師がお出ましになりました。丁度その頃、道元禪師が正しい仏法を求めて中国、当時の宋の国に渡り、さいわいにも天童如浄禪師に相まみえることができ、如浄禪師のもとで修行にはげみ、五十一代目の祖師に列せられて日本に帰られました。そして『正法眼蔵』という不朽の名著を九十五巻もお書きになり、すぐれた弟子を養成し、永平寺をお開きになりました。しかし残念なことに五十四歳でお亡くなりになりました。

さいわいなことに、道元禪師から四代目に瑩山禪師がおでましになりました。瑩山禪師は、上下貴賤の別なく、また老若男女を問わず、遠い近いのへだてなく、実に多くの人々から慕わ



れ帰依された、まことに衆生縁しゆじやうえんの厚いお方で、大勢の信者を教化され、すぐれたお弟子をお育てになり、また諸処方々にお寺をお開きになりました。五十四歳のとき、定賢律師じやうけんりつしから諸岳寺もろがくでらを寄進され、それを總持寺と命名して禅寺としました。こうして、道元禅師のきびしいみ教えをわかりやすく温かく包み込み、誰彼れの別なく導かれた瑩山禅師さまのすぐれた功績、すばらしい御活躍は後醍醐天皇ごだいごてんのうのお耳にも達しました。後醍醐天皇は熱心な仏教信奉者でありましただけに、日頃いろんな疑問も抱いておられましたので、その疑問点を十カ条にまとめて瑩山禅師に御下問にられました。それに対する瑩山禅師さまのお答えが簡潔明瞭でしたので、後醍醐天皇は大いに喜ばれ、「曹洞出世の道場」とのお言葉を賜わり、本山としての地位を確立し、それまで無名であつた教団が「曹洞宗」という宗名を公称することが出来るようになったので

あります。こうして、瑩山禅師さまの教えの流れを汲む法系の方々の開かれた寺が、曹洞宗全体の寺院の大部分を占めているのであります。ここから、他に類例のない、一宗に二つの本山がある曹洞宗ができたのであります。

道元禅師は正しい仏法の種子を蒔かれたお方ですから一家にたとえれば父親に相当します。そこで高祖こうそさまと申します。瑩山禅師は、道元禅師の蒔かれた正しい仏法の種子をひろく国中にひろめられましたので、いわば母親に相当します。ですから、太祖たいそさま、おふたかたを併せて両祖さまと申します。そして、高祖道元禅師の開かれた永平寺と、太祖瑩山禅師の開かれた總持寺を共に同列同格の大本山と申します。それから道元禅師には承陽大師じやうやうだいし、瑩山禅師には常濟大師じやうさいだいしという大師号を賜わっておりますので、正式には高祖承陽大師道元禅師、太祖常濟大師瑩山禅師と申し上げるのであります。

以上、申し上げましたように、日本の曹洞宗は、高祖さまと太祖さまのおふたかたのお力で、発展してまいったのであります。全国津々浦々にいたるまで曹洞宗のお寺があり、多くの檀信徒の方々が朝な夕なそのみ教えをいただいて暮らすことができるのは、全くこのおふたかたがおられたからであります。

三

さて、總持寺はもとこの地鶴見ヶ丘にあったものではありません。開創以来、能登の国、いまの石川県にあったのですが、明治三十一年四月十三日、不慮の火災により堂塔伽藍の大半を焼失してしまいました。その再建復興にあたり、時あたかも政治・経済の中心が京都から東京に移っておりまして、時代の進展に伴って瑩山禪師のみ教えをより多くの人々にひろめるにはやはり首都圏に進出すべきだという意見

が反対論をおさえ、明治四十年この地に移ることとなり、明治四十四年十一月五日遷祖式がおこなわれたのでありまして、今年で八十三年になります。皆様^がた^が最初にお入りになられた本^山で一番新しい、一番豪華な建物「三松閣」は四年前、本山移東八十年の記念事業として建てられたものであります。なお、能登の總持寺跡は「大本山總持寺祖院」として堂塔伽藍が整備され、小規模ながら本山としての風格をそなえております。

八十年という歳月は、人間一個人の生命を尺度とすればおおよそ一生に相当する長い年月であります^が、大きな歴史の流れからすればほんの一瞬であります。その短い時の流れの間に、ごらんのように、十五万坪の境内に五十余棟の堂塔伽藍がその威容を誇っておりますし、また、全国各地から参詣の方々や参禪の方々^が日に日に多く、海外からもおいでになっておられます。

これは瑩山禪師さまの御遺徳のしからむるところであります。

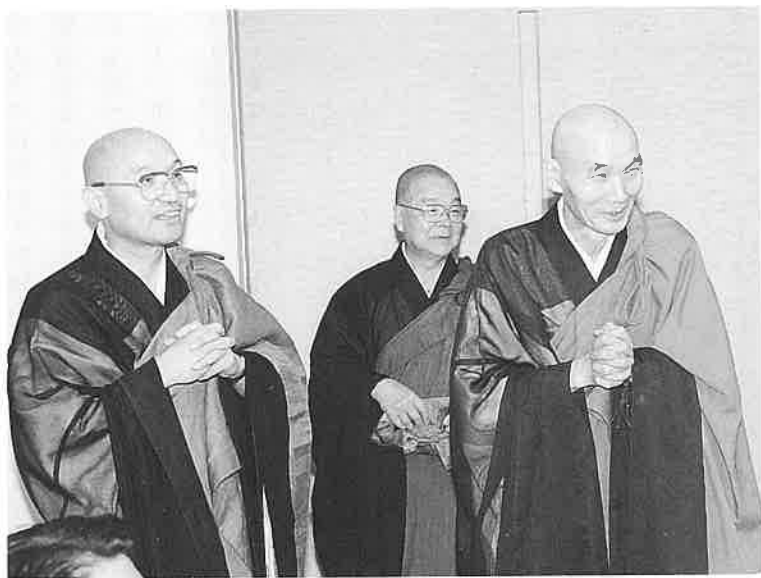
瑩山禪師は御一生を通じ三つの誓願をたてておられますが、その一つの女人済度の誓願についてお話いたします。

瑩山禪師が五十一歳のとき、観音信者だった母親・懷観大師えいかんだいしが八十七歳でお亡くなりになりましたが、その臨終の枕もとでの御遺言、「女性というものは苦勞の多い運命にさいなまれて生涯を過すごさねばなりません。どうぞ薄幸の女性のために、ほんとうの仕合せになることのできる心の支えを与えていただきたい」というお言葉が瑩山禪師さまのお心にしみ込んだのでありましょう。男尊女卑の風潮の甚しい当時、瑩山禪師さまは敢然としてその悪習打破を宣言されたのであります。この誓願を現代に生かそうとしたのが総持学園の経営であります。大正十四年、瑩山禪師六百回大遠忌、六百回忌の大法要

が厳修されましたが、この記念事業として開校されたのが鶴見高等女学校で、皆さん方の中にも卒業生がおられるかと思いますが、開校当時は生徒数わずか十六名に過ぎなかったのですが、いまや総持学園は、小学校がなければ、幼稚園・中学校・高等学校・大学まで七千人の女性を擁しております。鶴見大学の歯学部と幼稚園だけは男も入っておりますが、他は全部女性で、正しい仏法、禪を根幹とした教育によって大きな成果を挙げているのであります。

「宗教なき教育は賢い鬼をつくる」といわれます。賢い鬼は社会をこわすことはできません、社会を建設することはできません。日本は明治以来、無宗教教育をおこなってききましたので賢い鬼が巷にあふれており、まことに物騒な世の中になりました。

賢い鬼をなくするには正しい宗教を根幹とした教育が必要であります。この点総持学園に学



左から黒田住職、佐藤老師、齋藤監院老師



ぶ人たちはほんとうに仕合せであり、そしてそれらの人々はやがてお母さんとなられ、子供を養育なさるので、その影響ははかり知れないものがあります。

二十一世紀は心の時代といわれます。いや、すでに世界はいまや大きな音をたてて動き出しております。この大きな流れの中において真の

やすらぎを求める人々に対し、瑩山禪師さまのみ教えは大きな心の支えとなることであります。方丈さまは瑩山禪師さまのみ教えを体して寺門の経営にあたっておられますから、皆様も今までより以上信心を培養して共々に歩んでくださるようお願いし、善光寺さまのさらなる御発展を祈念いたします。

